

名大の時間

「超高齢社会」つなぐ、広げる、認知症理解の輪―何も無いがあるこの地で―

高橋智美と申します。老年看護学領域の教員として学生と共に学問の深化を目指し邁進しています。

本邦では高齢化が伸展し、2022年にはモノコに次ぐ2位(2929.9%)に

位置付けられています。WHO及び国連は65歳以上の高齢者の割合が「人口の21%」を超えた社会を「超高齢社会」と定義しています。

本邦は超高齢社会

であり、名寄市(同年33.0%)もその類です。高齢化率と比例して認知症高齢者数も増加しており、2025年には65歳以上の高齢者の約5人に1人を占める見込みです。

超高齢社会に伴う認知症及び要介護高齢者の増加を見据え、本邦では地域の包括的な支援、サービステ体制が一体的に切れ目無く提供される地域包括ケアシ

テムの構築が進んでいます。このシステムは、自助・共助・互助・公助で支えられているものの、都市部では意識的に互助の強化を行わなければ互助は期待できないとされています。

「聖女の力は万能です」のアニメで「ここ(地方の森)には何も無い」と言われた主人公が「何も無いがある」と返した場面があります。視聴時は腑に落ちなかつたものの、名寄で心穏やかな時を送り「ある」が有形だけを指していないことに

着任時に「(名寄は)生活には困らないが、これといって何も無い」と伺いましたが、本当に何も無いのでしょうか。名寄はコンパクトシティ。故の利便性、

豊かな自然、そしてなによりこの地に育まれた人々の温かさとの繋がりがありません。

「聖女の力は万能です」のアニメで「ここ(地方の森)には何も無い」と言われた主人公が「何も無いがある」と返した場面があります。視聴時は腑に落ちなかつたものの、名寄で心穏やかな時を送り「ある」が有形だけを指していないことに

指していないことに



気づき、ようやく腑に落ちました。

名寄の強みの1つは人の力です。私はこの地の皆様と繋がりたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

看護学科教授

高橋智美

認知症理解の輪を広げ、認知症が進行しても可能な限り住み